

4.2 研究事例の概要

- ・シナリオ設定は、上述したとおり、分別収集率、処理方法、収集区分、収集方法、収集回数、収集車両、サーマルリサイクルの方法に関して行われている。これらのシナリオ設定のうち大部分は、施設整備に関連するものであり、自治体や一部事務組合などが新規設備整備検討などの際に活用できる可能性がある。また、収集車両の変更など、大規模な投資を必要としないシナリオ設定もある。
- ・評価指標は、今回検討した 22 の事例では、コストや統合化指標も含めて 17 の指標を用いて検討している。評価指標を分類すると、最終処分量、資源・エネルギー消費量・回収量、地球温暖化への影響、酸性雨への影響、その他土壌・水域への影響、コストとなる。地域の現状に即した評価指標を適用し、検討・評価することが可能であると言える。
- ・今回検討した 22 の事例では、実在する都市について検討を行った事例も 9 件あり、自治体や一部事務組合等が行う検討への LCA の適用の可能性が考えられる。

4.3 廃棄物処理システムの検討ツールとしての LCA の可能性

- ・施設整備についての環境影響については、環境影響評価法や環境影響評価条例などで、施設の整備・運用に関する環境影響の評価や住民合意が求められ、必然的に環境影響の評価がなされるが、廃棄物処理のソフト的な変更など環境影響評価法等の対象にならないケースにおける環境影響の評価や、環境影響評価法等の対象とならない項目の評価が必要なケースなどにおいて LCA による評価の有効性が考えられる。

表 4-3 環境影響評価における評価項目（例）

環境の自然的構成要素の 良好な状態の保持	大気環境	・大気質 ・悪臭	・騒音 ・その他	・振動
	水環境	・水質 ・その他	・底質	・地下水
	土壌環境・その他の環境	・地形、地質 ・その他	・地盤	・土壌
生物の多様性の確保及び 自然環境の体系的保全	植物			
	動物			
	生態系			
人と自然との豊かな触れ 合い	景観			
	触れ合い活動の場			
環境への負荷	廃棄物等			
	温室効果ガス等			

（参考資料）環境影響評価情報支援ネットワーク

- ・住民に対する行政の説明責任がより重要になる中で、予算執行に関する事項だけでなく、資源の有効活用や、環境保護への十分な配慮などについて事前の検討・住民への情報提供が求められることが考えられる。このようなニーズに対応する意味で、LCA は有効なツールになると考えられる。